

第6期美幌町総合計画

～ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ～

| 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 |

平成28年4月

美 幌 町

～ ひとがつながる、みらいへつなげる

ここにしかないまち びほろ ～の実現を目指して

平成18年度に策定した第5期美幌町総合計画は、平成27年度までを期間とする計画でありました。この間には、国内においても人口減少や超高齢社会の到来、大規模災害の発生など、目まぐるしい変化を続けており、新たな課題が浮き彫りになっています。

これら社会情勢の変化などに即応するには、地域の力を守り、高め、育てていく必要があります。本町では平成23年に美幌町自治基本条例を制定し、町民主体のまちづくりを進めてきたところですが、このたび、自治基本条例制定後初となる、平成28年度を初年度とする「第6期美幌町総合計画」を策定いたしました。

まちの最上位計画となるこの総合計画の策定にあたっては、美幌町自治基本条例の趣旨を最大限尊重し、町民主体で作り上げることを目標に、団体推薦や一般公募からなる町民40名で構成する『びほろ』みらいまちづくり会議において、計画の素案を策定いただきました。

素案策定にあたっては、町民アンケートや出前ヒアリングなどから得た町民皆様の多くのご意見を集約し、それらを基に議論を進めてきました。貴重なご意見をいただきました町民の皆さまを始め、美幌町総合計画審議会並びに町議会など、関係者の皆さまに心より厚くお礼申し上げます。

正に、町が一丸となって、時代の荒波を乗り越える羅針盤を築き上げたと考えております。

この計画は、町民の皆様のご理解とご協力があってこそ生きてくるものです。将来像として定めた「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ」の実現に向け、どうぞ今後とも行政への積極的なご参画をお願い申し上げます。



平成28年4月

美幌町長 土谷 耕治

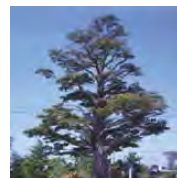
美幌町民憲章

わたしたちは、美幌峠を仰ぎ、愛の鐘の鳴りひびく、美幌の町民です。
わたしたちは、ながい開拓の歴史と、輝かしい産業の町を誇りとして、
おたがいのしあわせをねがい、ゆたかな明るい町をつくるために、
この町民憲章をさだめます

- 1 げんきで働き豊かなまちにしましょう。
- 1 たがいに助けあいあたたかなまちにしましょう。
- 1 きまりを守り明るいまちにしましょう。
- 1 環境をととのえ美しいまちにしましょう。
- 1 文化をたかめしあわせなまちにしましょう。



町の花：エゾムラサキツツジ



町の木：イチイ（オンコ）

もくじ

基本構想

はじめに

1 策定の趣旨	002
2 総合計画の構成と期間	002
(1) 構成	002
(2) 期間	003
3 美幌町の概要	003
(1) 立地、沿革、産業など	003
(2) 人口の動向	004
4 美幌町を取り巻く環境	005
(1) 人口減少の進展と超高齢社会の到来	005
(2) 情報化、国際化の広がり	006
(3) 「安全」「安心」を願う気持ちの高まり	006
(4) 「地方自治」の更なる推進	006
5 町民の意向と評価	007
(1) 住みごころ	007
(2) 定住の意向	007
(3) 将来の美幌町に望む姿	008
6 美幌町の課題	008
(1) 若い世代も住み良さを実感するまちづくり	008
(2) 「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくり	009
(3) 町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつける	010
(4) 長生きを楽しめるまちづくり	010
(5) まちづくりを支える人を増やし、効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高める	011
(6) 知恵を出し合って課題を解決していく力を高める	011

基本構想

1 将来像	014
2 人口の指標	014
3 基本目標	015
(1) 基本目標 1-人を創り、地域力を高めるまちづくり	015
(2) 基本目標 2-自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり	015
(3) 基本目標 3-まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	016
(4) 基本目標 4-住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	016
(5) 基本目標 5-夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	016

基本計画

基本計画の施策の体系	018
------------	-----

基本目標 1- 人を創り、地域力を高めるまちづくり

1-1 町民との協働によるまちづくり	024
1-2 持続可能な行財政システムの確立	030
1-3 国際・国内交流の推進	034
1-4 地域の安全対策の充実	036
1-5 公共交通の充実	039
1-6 地域の情報化の推進	042
1-7 防災体制の強化	043
1-8 消防・救急体制の強化	045

基本目標 2- 自然の美しさや暮らしの安心を、みんなで護りあうまちづくり

2-1 地域福祉機能の充実	048
2-2 高齢者福祉の充実	050
2-3 障がい者福祉の充実	054
2-4 子育て支援の充実	057
2-5 保健予防対策の推進	060
2-6 地域医療体制の充実	063
2-7 生活環境保全・緑化活動の推進	066
2-8 ごみ処理、リサイクルの推進	069
2-9 社会保障による支援	070

基本目標 3- まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり

3-1 雇用の拡大、安定	074
3-2 農業の振興	077
3-3 林業の振興	083
3-4 新エネルギーの推進	085
3-5 商工業の振興	086
3-6 観光の振興	089
3-7 地域特産品の振興	092
3-8 消費者保護の充実	094

基本目標 4- 住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり

4-1 道路網の整備	096
4-2 除排雪体制の充実	099
4-3 治山・治水対策の推進	102
4-4 住みやすく美しい市街地機能の向上	104
4-5 公園、緑地の整備	107
4-6 住宅環境の整備	109
4-7 上下水道の整備	111

基本目標 5- 夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり

5-1 幼稚園、学校教育の充実	116
5-2 生涯学習の充実	120
5-3 青少年の健全育成	125
5-4 芸術、文化の振興	128
5-5 スポーツの振興	130
町長マニフェストについて	134

資 料

01 指標一覧	137
02 計画一覧	143
03 組織体制図	148
04 策定経過	149
05 諮問・答申	152
06 議会への提案、議決等	154
07 条例・要綱	155
08 各種委員名簿（敬称略）	160
09 施策（グループ別）	162
10 用語集（あいうえお順）	163

は じめに

1 策定の趣旨

美幌町では、これまで5期にわたって総合計画を策定し、まちづくりを進めてきました。

この間、増加していく人口に対応するなど、公共施設や生活基盤の整備を進め、昭和62年には町政執行100年を迎えました。平成の時代に入ると人口が減少傾向となり、それまでの基盤整備中心のまちづくりから、基盤の活用や人づくりを重視するまちづくりへと変わっていきました。

平成18年度から27年度までを期間とする「第5期美幌町総合計画」では、「夢はぐくむ緑の大地 びほろ～長生きを楽しめるまちづくり～」を将来像に掲げ、まちづくりを進めてきました。

第1期
昭和41年～昭和50年度

第2期
昭和51年～昭和60年度

第3期
昭和61年～平成7年度

第4期
平成8年～平成17年度

第5期
平成18年～平成27年度



第6期
美幌町総合計画

長年低迷が続いてきた経済は、全国的には徐々に回復の兆しが見えてきましたが、地方の自治体や住民が実感するには至っていません。また、平成23年に発生した東日本大震災など、甚大な被害がめだつ自然災害に対する不安が高まっており、「安全・安心なまちづくり」が全国的に重要な課題となっています。

平成26年には「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、止まらない人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を高めるべく、地方自治体に更なる取り組みが求められました。

このようななか、平成23年度の地方分権改革に伴う地方自治法の改正により、総合計画を策定するという法律上の義務はなくなりましたが、本町では、まちの憲法とも言われる「美幌町自治基本条例」で総合計画の策定を義務づけ、新たなまちづくり計画「第6期美幌町総合計画」を策定することといたしました。

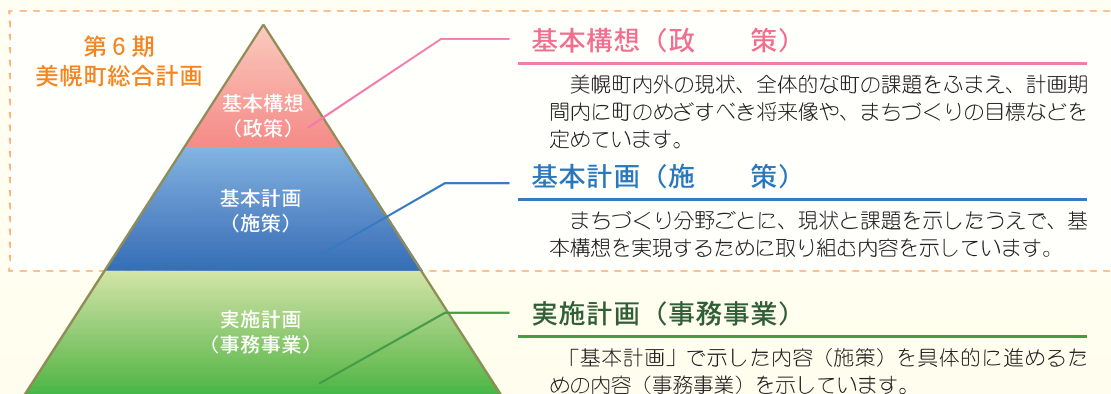
「美幌町自治基本条例」は、町民主体のまちづくりを進めることを基本としており、今回この計画を策定するにあたり、町民主体の『びほろ』みらいまちづくり会議において、課題を整理し、方向性や取り組む内容を検討し、計画に位置づけるという、策定体制で進めました。

社会経済の変動や自然災害の発生など将来予測が難しい今日ですが、第5期美幌町総合計画の取り組みを検証し、美幌町の住み良さや魅力を今まで以上に高めていくまちづくりをめざし、この計画を策定しました。

2 総合計画の構成と期間

(1) 構成

この計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つから成るピラミッド型の構成になっています。それぞれの部分で示す内容は、次のとおりです。



(2) 期間

この計画は、平成28年度（2016年度）から平成38年度（2026年度）までの11年間で計画期間とします。また、「基本構想」「基本計画」「実施計画」それぞれの計画期間は、次のとおりです。

西 暦	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
平 成	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38

基本構想

11年間※1

※1: 町長公約（ローカルマニフェスト）を反映させるため、第7期以降は12年間で設定します。

基本計画

3年間※2

4年間

4年間

※2: はじめの設定は3年間ですが、以降は4年間です。

実施計画

3年間

3年間

3年間

以下同様に、毎年、向こう3年間を見直し、内容を更新します。

3 美幌町の概要

(1) 立地、沿革、産業など

美幌町は、北海道の東部、オホーツク管内のほぼ中央部に位置します。大空町、小清水町、北見市、津別町、釧路管内弟子屈町と隣接し、市街地には国道4本が縦横断しており、道東の交通の要衝とされています。

総面積は438.41km²で、東部に藻琴山（標高999.6メートル）をはじめ高い山並みがありますが、そのほかは標高200～300メートルの台地が西北に傾斜し、町の中央部を北流する河川の両岸には肥沃な平地が帯状にあります。

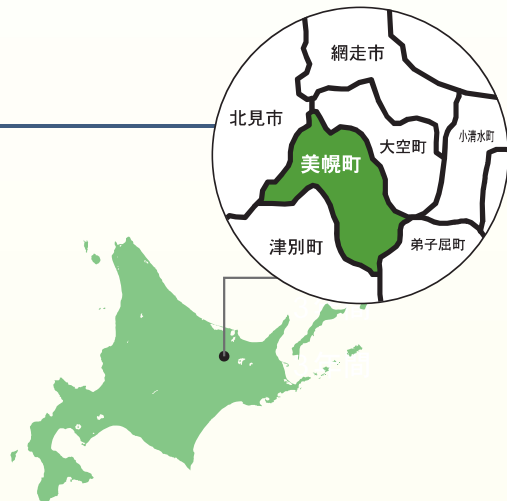
気象は、オホーツク海沿岸と北見内陸地帯の中間に位置することから、オホーツク海流、海霧、流氷の影響を受け、冬は-20℃前後、夏は30℃前後になることもあるなど、寒暖の差が大きくなっています。降水量は、年平均700ミリメートルと少なく、国内でも有数の日照率の高さを誇っています。

多くの清流が合流して水量が豊富なところを、アイヌ語で「ピ・ポロ＝水多く・大いなところ」といい、これが町名の由来となりました。明治20年に美幌外5カ村戸長役場が設置され、大正4年に2級村制を施行し、美幌村となりました。さらに、同8年に津別村を分村し、同12年に美幌町となりました。

主な産業は農業で、1万ヘクタールを超える耕地があり、小麦、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎなどが主に生産され、これらの農産物を原料とする加工業も多くあります。森林は、行政区域面積の62%にあたる約2万7千ヘクタールを占めており、人工林のうち約79%がカラマツとなっています。有数の森林資源を地域の活性化に役立てようと、世界基準であるFSC®森林認証を取得し、木材の高付加価値化、ブランド化を図っています。

また、美幌町には、海軍航空隊時代からの歴史がある陸上自衛隊美幌駐屯地が存置し、災害派遣活動などにより地域と密接な関係を築いております。

女満別空港が近く、石北本線や国道4路線、道道6路線が通る交通の要衝であるため、道東観光の玄関口にもなっています。

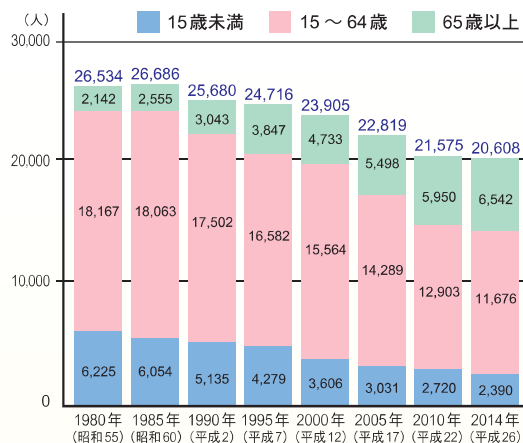


（２）人口の動向

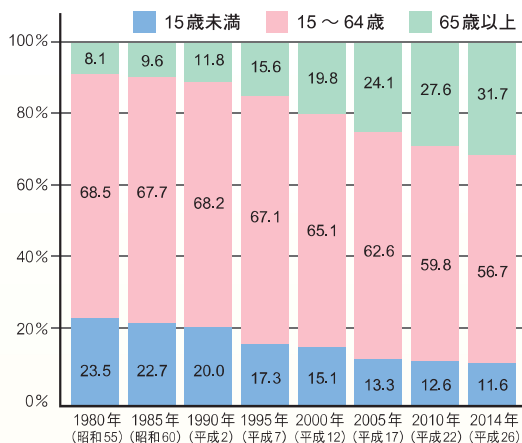
人口は、昭和39年の28,479人を最高に緩やかな減少傾向となり、平成27年3月末には、20,608人になっています。

年齢別の人口比率をみると、高齢者の比率が増えており、昭和55年には8.1%でしたが平成22年には27.6%と増加しています。一方、若年者人口比率は、昭和55年の23.5%から平成22年には11.6%と減少しています。

人口の推移



年齢3区分の構成比の推移

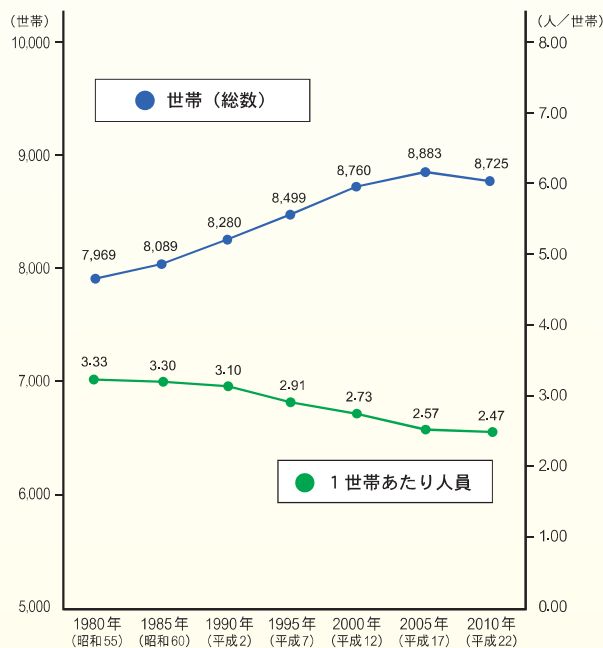


※上の2つのグラフの数値は、平成26年のみ住民基本台帳（平成27年3月末現在）、その他は国勢調査の数値です。

※合計には年齢不詳の人口も含まれていますので各項目の合計とは一致しません。

世帯数については、核家族化の進展もあり、人口が減少傾向になった後もしばらく横ばいの状況が続いていましたが、平成17年の8,883世帯をピークに減少し始め、平成22年は8,725世帯となりました。1世帯あたり人員は減少傾向が続いており、平成22年は2.47人となっています。

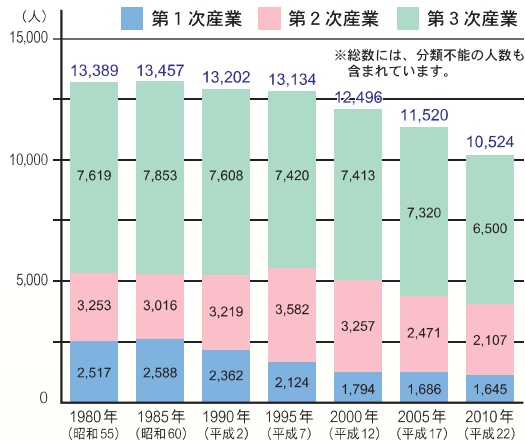
世帯数と1世帯あたり人員の推移（国勢調査）



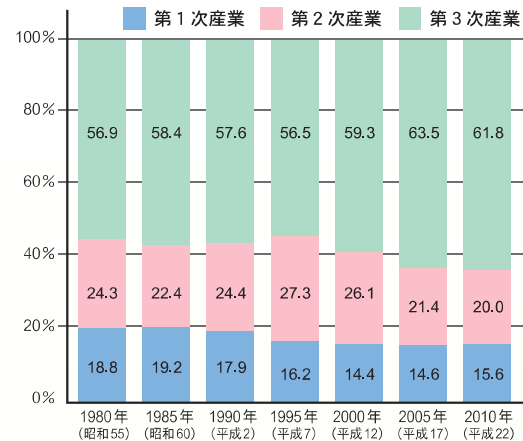
就業人口については、総人口と同じく、昭和60年をピークに減少しており、平成22年は、総数が10,524人となっています。

産業別の就業人口の構成比率については、長期的な傾向でみると、第1次産業の比率が減少し、第3次産業の比率が増加しています。

産業別就業人口の推移（国勢調査）



産業別就業人口構成比の推移



4 美幌町を取り巻く環境

美幌町を取り巻く国内外の現状と、本町のまちづくりを考えるうえで関連する課題をテーマごとにまとめると、次のとおりです。

（1）人口減少の進展と超高齢社会の到来

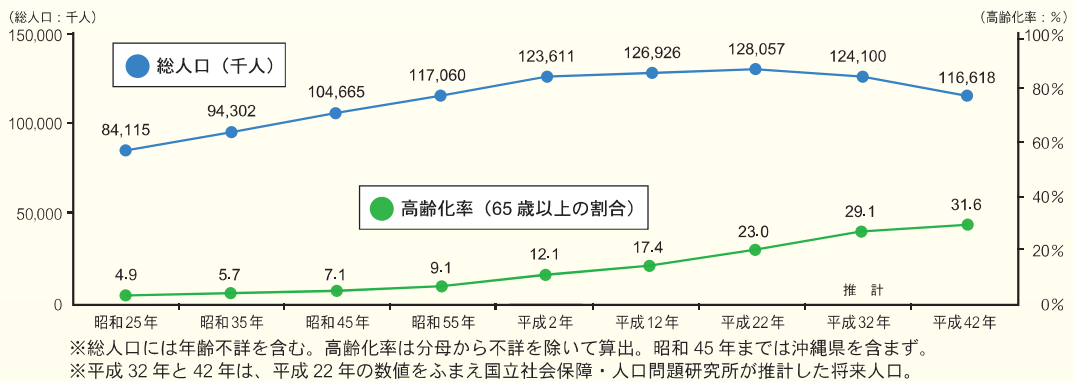
現状

世界の人口が増加を続け70億人を超えるなか、日本は人口減少社会を迎えました。平成22年（2010年）の1億2,800万人余をピークに減少しはじめ、今後もこの傾向は進むと予測されています。年齢別の人口構成をみると、高齢人口が増加しており、世界に先駆けて「超高齢社会」に突入したとされています。生産人口が減る一方、社会保障費は増大し、労働力の不足や財政の悪化が、日本の深刻な課題となっています。また、人口が少ない集落などでは地域の活動を支えてきた人がいなくなり、コミュニティ活動が立ちゆかない状況もみられます。

課題

このようななか、人口減少に歯止めをかけるため、国は平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「45年後の2060年に、1億人程度の人口を確保する」ことを目的とした取り組みを始めました。東京圏への人口集中を是正し、地方の過疎化を抑制することも目的とされており、特に、地方自治体には出生率や人口の増加につながる具体的な取り組みが求められています。

総人口・高齢化率の推移と将来推計（国勢調査）



(2) 情報化、国際化の広がり

現状

インターネットや携帯電話などのICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の普及が世界中で進んでいます。個々の情報収集・通信手段のほか、企業や行政でもさまざまな分野で活用が広がっています。

また、情報網と同様に、交通網の拡大、高速化も進み、人やもの、お金、情報などが国境を越えて活発に動き回っており、都市部に限らず、日本各地で外国人を見かけることも多くなり、交流機会が増えています。

課題

インターネットの普及は、日常生活や社会経済を便利で豊かにする一方、トラブルや犯罪も増えており、悪用への対応が求められています。

また、まちづくり分野では、観光や福祉、防災をはじめさまざまな分野で、ICTを効果的に活用していくことが期待されており、使いこなせる環境や知識の普及、人材の育成などが課題となっています。

さらに、国際化によって、日本と海外を行き交う交流人口が拡大しており、訪日外国人の受入環境の整備や国際化に対応できる教育などが、全国的に求められています。

(3) 「安全」「安心」を願う気持ちの高まり

現状

経済面や老後の生活などに不安を感じる人も増えており、「安全・安心」を求める声やその内容は拡大しています。特に近年は、東日本大震災や異常気象による災害の発生により、防災面や環境面での安全・安心を求める声が高まっています。

課題

「安全・安心」は全国的にまちづくりのキーワードとなっていますが、住民の願う「安全・安心」は立場や環境などによって異なるため、これまで以上に個別のニーズを把握し、細やかに対応していくことが課題となっています。

また、北海道は「安全・安心」な食料生産の場であることに加えて、地震や自然災害が少ないという点で、移住や企業立地の場として関心が高まっており、「安全・安心」な地域であることをアピールポイントに活かすことも求められています。

(4) 「地方自治」の更なる推進

現状

地方分権一括法により、地域の実情に沿った行政運営が求められる一方で、全国的に合併が推進され、平成11年には3,000以上あった市町村数は、平成26年現在、1,700余となりました。また、簡素で効率的な行財政システムを進めるため、地方自治法の改正により、複数の自治体が共同で事業をしやすいなど、自治体相互の連携による課題解決がより一層求められています。さらに、住民、議会、行政の役割分担や住民参加のしくみなど、住民自治を進めていくうえで必要なことを条例によって明確に位置づける自治体も増えてきております。

課題

地域が自らの責任と判断でまちづくりを進めていくことが求められていますが、それらを進める職員体制や財源が十分に確保できないという課題もあります。また、地域の実情に沿ったまちづくりを進めるためには、より多くの地域住民の声を聞き、反映させていくことが必要です。このようなことから、地方自治を推進していくうえで、地域住民との連携が、今まで以上に重要になっています。

さらに、住民自治を推進するうえで、自治会や町内会といった組織の力は大きいですが、過疎化や高齢化により活動が低迷する傾向が全国で見られます。より積極的かつ幅広く参加を促すとともに、効率的に活動できる組織づくりを進めていくことが課題となっています。



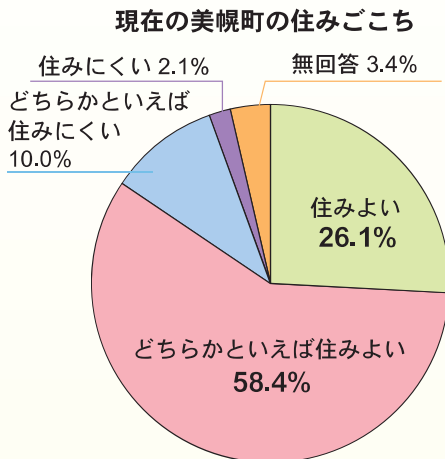
5 町民の意向と評価

この計画を策定するにあたって、美幌町に住む18歳以上の方や町内の中学生、高校生の方を対象にアンケートを実施したほか、小学生、子育てサークル、老人憩の家、自衛隊美幌駐屯地に出向き意見を伺いました。

このうち町民アンケートについては、平成26年7月に実施し、813人の方から回答を頂きました。この結果から、美幌町のまちづくりへの評価やこれからのまちづくりへの意向についての主な結果は、次のとおりです。

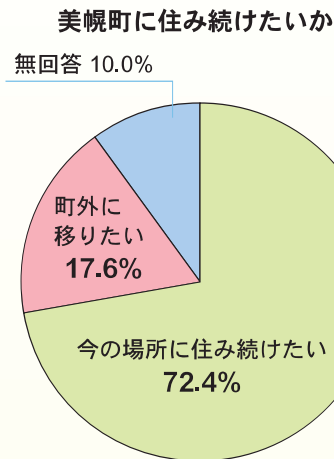
(1) 住みごころ

美幌町の現在の住みごころについて尋ねたところ、「住みよい」が26.1%、「どちらかといえば住みよい」が58.4%を占めました。この2つの回答を合計すると84.5%となり、約85%が住みごころを肯定的に評価しているといえます。



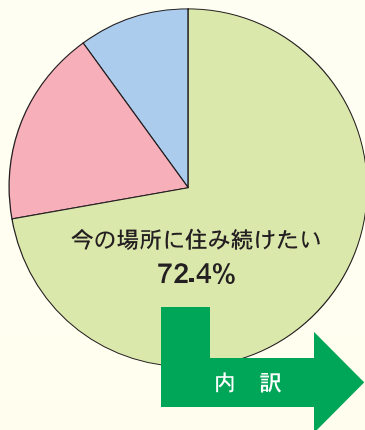
(2) 定住の意向

これからも美幌町に住み続けたいか尋ねたところ、「今の場所(町内)に住み続けたい」が72.4%、「町外に移りたい」が17.6%を占めました。約70%が町内に定住意向を持っているといえます。

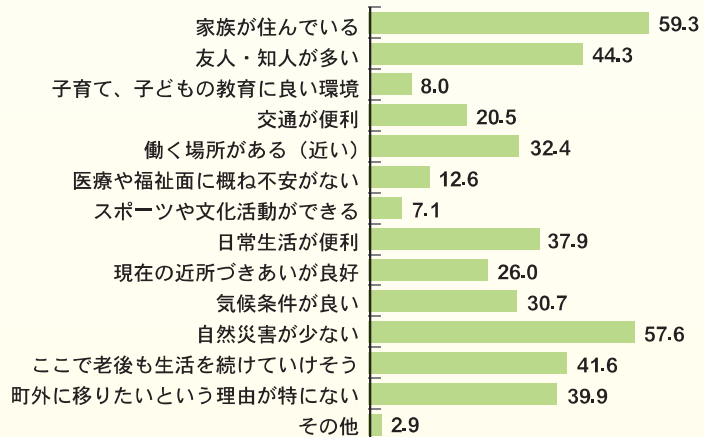


また、「今の場所に住み続けたい」を選んだ理由のうち、美幌町の特徴的なものとしては、「自然災害が少ない」や「日常生活が便利」という回答が多くあげられました。

美幌町に住み続けたいか

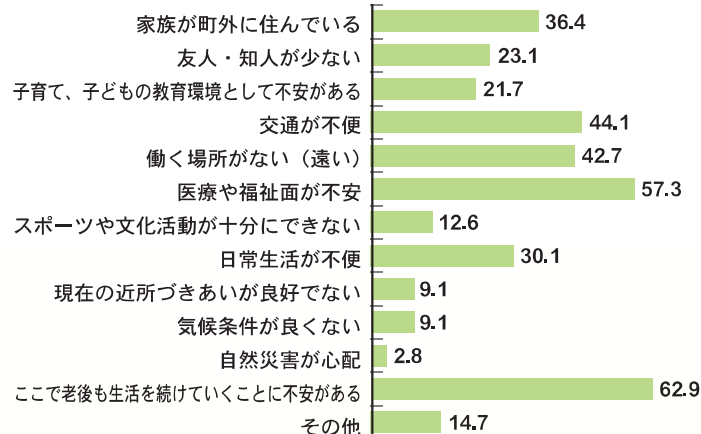


町内に住み続けたい理由(すべて選択)

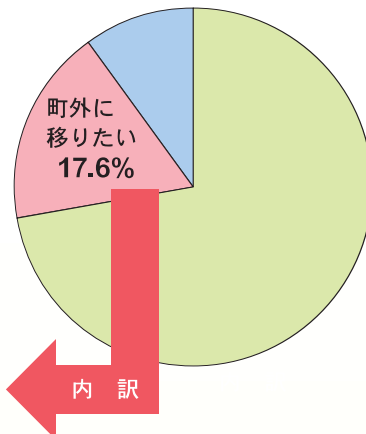


一方、「町外に移りたい理由」を選んだ理由については、「医療や福祉面が不安」や「働く場所がない（遠い）」などが多くあげられました。

町外に移りたい理由（すべて選択）



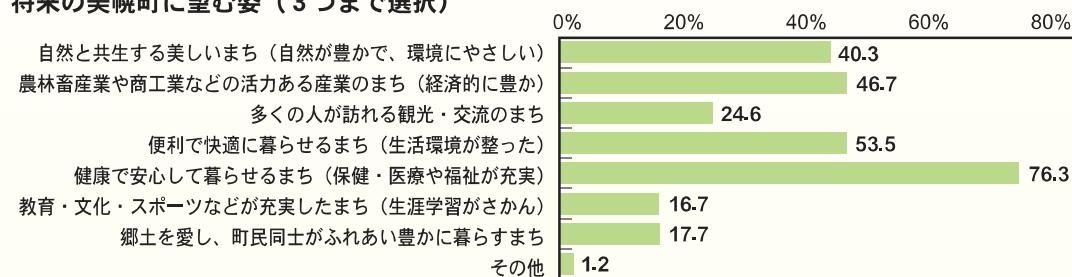
美幌町に住み続けたいか



（３）将来の美幌町に望む姿

将来の美幌町に望む姿について尋ねたところ、「健康で安心して暮らせるまち（保健・医療や福祉が充実したまち）」が76.3%と最も多く回答されました。

将来の美幌町に望む姿（３つまで選択）



6 美幌町の課題

（１）若い世代も住み良さを実感するまちづくり

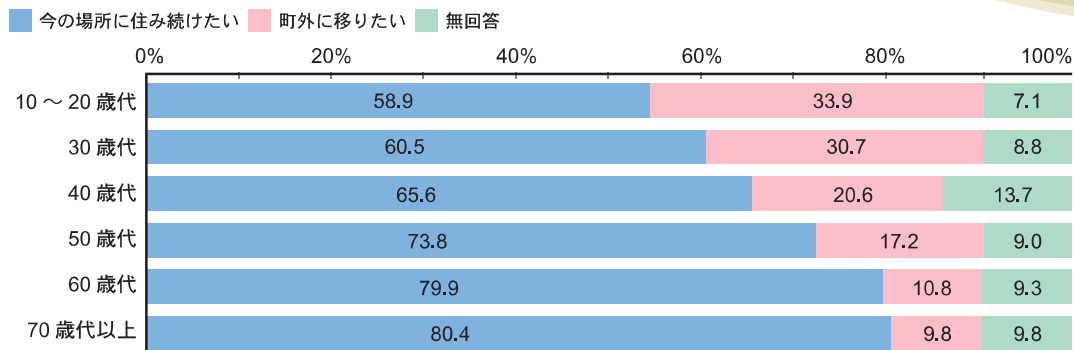
町民アンケートで美幌町への定住意向を尋ねると、年代が高まるほど「住み続けたい」という回答率が高く、若い世代は比較的低い状況です。

また、若い世代は、町外に移りたい理由として、他の年代に比べて「子育て、子どもの教育環境が不安」「友人・知人が少ない」という回答が多く、具体的には、子どもを産む環境や子どもを遊ばせる場所への不満、仕事と子育ての両立への支援や経済的な負担軽減をしてほしいという声、若い世代が集まる場や機会が少ないという声などがあります。

子育て支援に限らず、若い世代が美幌町での生活を楽しめる環境をより一体的に向上させ、美幌町に住み続けたい、住みたいと思う若い世代を今よりも増やしていくことが必要です。



美幌町に住み続けたいか（町民アンケート / 年代別の比較）



（２）「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくり

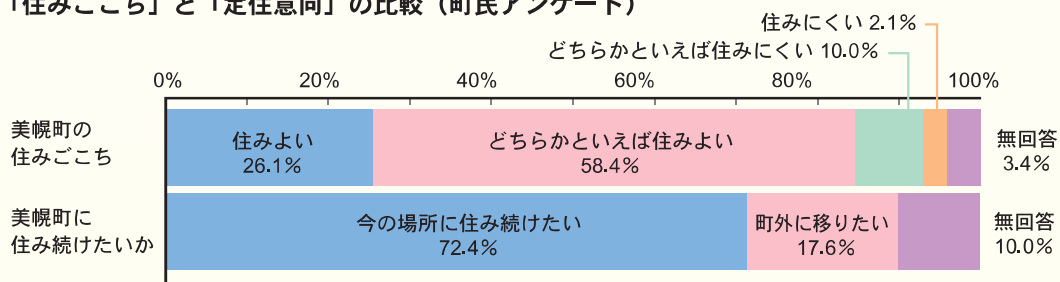
町民アンケートで美幌町の住みごちを尋ねると、84.5%は「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」のいずれかを回答しています。中高生アンケートでも同様に尋ねると、86.6%を占め、大人より高くなっています。

この結果を、(1)で示した定住意向と比較すると、「美幌町は住みよい（どちらかといえば住みよい）」という回答率よりも「美幌町に住み続けたい」という回答率は低く、その差は大人で12.1ポイントですが、中高生は21.4ポイントの差があり、大人より差が大きくなっています。

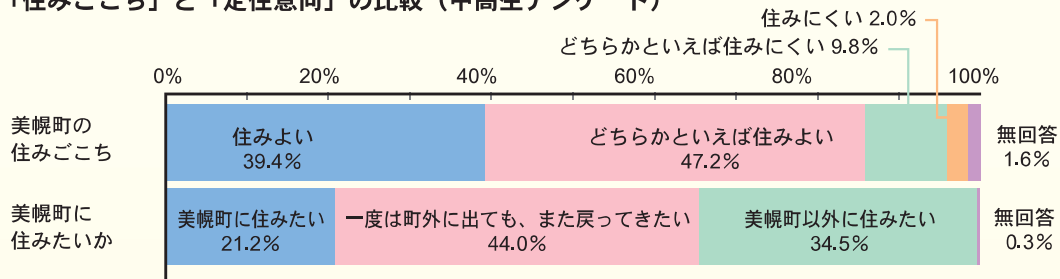
8割以上が「住みよい」と評価する現状は決して悪い状況ではありませんが、住みよいと思いながらも住み続けたい気持ちに至っていない町民がいることも事実です。住み良さの評価が定住意向につながり、その結果、人口の流出がくい止められ、子どもから大人まで住み続けたいと思う人が増えるまちづくりが必要です。

また、中高生アンケートで町外に移りたい理由を尋ねると、「買い物や遊び場が少ない」に続いて「自分に合う仕事がない」という回答が多くなっています。働く場を増やすことについては町民からも多くの声があがっており、若い世代の転出を抑えるためにも重要であるといえます。美幌町内で働きたい人が働ける環境、就きたい仕事に就ける環境などを充実させていくことが必要です。

「住みごち」と「定住意向」の比較（町民アンケート）



「住みごち」と「定住意向」の比較（中高生アンケート）



（３）町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつける

「美幌町の良さ」については、空港が近く市街地に国道が４本通り道東の交通の要衝となっていること、身近に自然が多いこと、農作物をはじめ食べ物が美味しいこと、生活しやすいコンパクトシティであることなどが評価されています。また、町民アンケートでは約６割が、自然災害が少ないことを町内に住み続けたい理由としてあげているほか、町内に陸上自衛隊の駐屯地があることについても、災害時の対応や地域経済への影響、地域行事への協力などの面から、町の特長と捉えている町民も少なくありません。

一方で、これらの特長を活かすことによって経済効果が特に期待できる観光については、町内に訪れる場や宿泊できる場所が少なく、素通りされやすいことなどが指摘されています。また、食やイベントの魅力がある程度評価されながらも、食を活かした特産品開発や売り方の工夫、イベントＰＲの工夫などが求められています。すでにある地域の資源を積極的に魅力アップにつなげ、観光の滞在化を図っていくことが必要です。

また、地域の住民に向けて、まちの良さを改めて伝えることによって、美幌への誇りを高めていくことも大切です。地域や学校での活動、広報などを通じて、歴史や文化なども含め、美幌町の良さを町内外に発信し続けることが必要です。



（４）長生を楽しめるまちづくり

これまで美幌町では、保健、医療、福祉部門の連携により、「長生を楽しめるまちづくり」を進めてきました。

特に、健康づくりについては、保健福祉総合センター「しゃきっとプラザ」を拠点に、性別や年代に応じた取り組みを進めてきました。その結果、町民アンケートでまちづくり分野ごとの「満足度」を尋ねると、保健・医療・福祉の分野で最も満足度が高かったのは「健康づくりや病気予防」であり、その考え方や取り組みへの理解は、徐々に浸透しつつあるといえます。

また、将来の町の姿として「健康で安心して暮らせるまち」を望む声が高く、引き続き取り組みが期待されているといえます。さらに、「自分にとっての豊かさ」について尋ねたところ、「心身の健康」が最も多く、世代を問わず、心身の健康が豊かさの象徴として重視されていることが分かります。

しかしながら、ひとり暮らしや単身世帯が増え、近所づきあいが希薄になってきている今日、どの世代も、なじみの関係が築きにくく、心身の健康づくりの仲間を持つことが難しい状況になっています。

これまでの取り組みに加えて、年代を超えて、生涯学習・スポーツや地域活動などで交流や仲間づくりができる機会を増やすなど、皆が誰かとつながりを持って、心身ともに長生をみんなで見守るまちづくりを進め、心も身体も元気な人を増やしていくことが必要です。



（５）まちづくりを支える人を増やし、 効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高める

美幌町では、スポーツや文化をはじめとした生涯学習に関する活動、高齢者の生活や子育てを支援する福祉活動、子どもや若い世代が参加する社会教育や体験活動などが、町民のボランティアにより支えられています。これらの活動は、子ども達の心身の成長や人づくりなどの面で重要な役割を担っています。

現在は活動を支える方々の理解と協力により、活発に行われていますが、若い世代が減っていくなか、人材が不足していくことが懸念されています。

一方、アンケートで参加したいまちづくり活動を尋ねると、福祉ボランティア活動を希望する60～70歳代の方や、小さな子どもと遊ぶなど子育て支援活動を希望する中高生が多くいることが分かりました。

中高生も含めより若い世代や元気な高齢者など、今は参加していない人達にも、積極的に声をかけ参加の輪を広げていくことが必要です。

さらに、各活動で連携できるところは連携し、少ない人数で効率的に運営できる工夫や、活動の場となっている施設の利便性を高めるなど、活動を促進する推進体制や施設づくりも進めていくことも重要です。



（６）知恵を出し合って課題を解決していく力を高める

美幌町では、まちづくりに関する各種委員会など、多くの町民が参加し、運営していくことが望ましい組織において、構成・参加している人が重複している状況が見られます。

協働のまちづくりを進めていくには、町民と行政が連携することは重要ですが、官民問わず町内にあらゆるすべての組織の連携を強化していくことも重要です。

「自立と協働」を基本に、日頃から、町民と行政、各組織や団体などで情報の共有化を図り、知恵を出し合い、課題を解決していく場面が多くみられるまちにしていけることが必要です。

さらに、日頃、まちづくり活動になじみが薄かったり、積極的ではない人でも、美幌のまちづくりに関心を持ち、機会があれば意見を述べたいと思っている人も少なくありません。日頃の活動を通じて、また、インターネット等様々な手法を通じて、小さくても聞こえて来る声を大切にしていけることが重要です。



